



平成29年度  
文京区×ドイツ・カイザーслаウテルン市  
姉妹都市交流30周年記念 訪問団報告書

文京区





## はじめに

訪問団 団長  
文京区長 成澤 廣修

文京区とドイツのカイザースラウテルン市は、平成30年3月に姉妹都市提携30周年を迎えます。そこで、姉妹都市提携30周年記念事業として、区民向けツアーを企画し、区民参加者21名と一緒に、本年5月にカイザースラウテルン市を訪問しました。

カイザースラウテルン市長との会談では、これまで積み重ねてきた姉妹都市交流の成果や将来を見据えた交流のあり方について確認するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたホストタウンの取組への協力も依頼しました。

公式歓迎会では、カイザースラウテルン市で受け入れている難民に対する、文京区民からの寄付金と、カイザースラウテルン市が募った釜石市への義援金に対するお礼状を、カイザースラウテルン市長に手渡しました。また、会場には多くのカイザースラウテルン市民も参加し、市民レベルでの交流が図られ、大変有意義な時間となりました。このほか、滞在中にカイザースラウテルン市内のフリッツ・ヴァルター・スタジアムや日本庭園などの訪問や、周辺都市への視察なども印象深く、区民参加者の皆さんの国際理解が深まったものと確信しております。

今後は、首長同士の訪問をはじめ、市民・区民訪問団やホームステイの派遣・受入れを継続させることはもとより、30周年の節目として、カイザースラウテルン広場の整備を行ってまいります。さらには、市民レベルの交流が一層盛んに進んでいくことを目的に、過去に訪問経験がある区民の皆さんの集いの場の設置を検討いたします。これらの様々な取組については、区民にわかりやすく情報発信をしながら、カイザースラウテルン市との友好関係を一層強固なものにしていきたいと考えております。

最後に、訪問に当たりまして、ご協力いただきました多くの方々から心から感謝申し上げます。



# 目次

はじめに

訪問スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

ドイツ地図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

訪問記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

公式訪問団会談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

公式歓迎会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

訪問視察

〈カイザースラウテルン市〉

1 市内視察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

2 フリッツ・ヴァルター・スタジアム・・・・・・・・・・・・ 6

3 日本庭園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

4 ガラップミューレ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

〈カイザースラウテルン市近郊〉

5 リューデスハイム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

6 ライン川・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

7 トリーア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

8 ストラスブール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

9 ハイデルベルク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

〈カイザースラウテルン市〉

10 B2Run・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

訪問団員の報告と現地の新聞報道等・・・・・・・・・・・・ 12

## 訪問団団員

団 長	成澤廣修	文京区長
区議会	白石英行	文京区議会議長
区議会	名取顕一	文京区議会総務区民委員長
事務局	鈴木大助	アカデミー推進部観光・国際担当課長
事務局	増田一昌	アカデミー推進部アカデミー推進課国際交流担当主査

(役職は平成29年5月訪問時)

## 訪問スケジュール

5月14日(日)

午前 羽田空港からルフトハンザ・ドイツ航空機でフランクフルト空港へ

午後 フランクフルト空港着。カイザースラウテルンへ移動

★以降、帰国までカイザースラウテルン市内に宿泊

5月15日(月)

午前 市長歓迎セレモニー

公式訪問団会談

市内視察

午後 フリッツ・ヴァルター・スタジアム

日本庭園

ガラップミュージーレ

夜 公式歓迎会

5月16日(火)

午前 リューデスハイム

ライン川下り

午後 トリーア

5月17日(水)

終日 ストラスブール

5月18日(木)

午前 ハイデルベルク

午後 カイザースラウテルン

5月19日(金)

午前 フランクフルト市内視察

午後 在フランクフルト日本国総領事公邸

フランクフルト空港からルフトハンザ・ドイツ航空機で羽田空港へ

5月20日(土)

午後 羽田空港着。現地解散。

# ドイツ地図



## 訪問記録

## 公式訪問団会談

### 1 日時・場所

5月15日(月) 午前9時30分～午前10時15分  
カイザースラウテルン市役所内 市長室

### 2 出席者

カイザースラウテルン市：クラウド ヴァイヒェル市長  
ハイデ シュミット女史  
ザビーネ ミケルス女史

文京区：成澤 廣修区長  
白石 英行議長  
名取 顕一総務区民委員長  
鈴木 大助観光・国際担当課長  
増田 一昌国際交流担当主査

在フランクフルト日本国総領事館：神山 武総領事  
小暮 了副領事

### 3 会談内容

- ・平成30年に、姉妹都市交流30周年記念として、カイザースラウテルン市からの訪問団派遣について合意を得た。
- ・2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンへの取り組みとして、カイザースラウテルン市との連携の可能性について意見交換を行った。





## 公式歓迎会

公式歓迎会は、市の中心から少し離れたレストラン「ブラウハウス」で行われた。広々として気持ちの良いレストランで、カイザースラウテルン市側からは、市議会議員や市職員のほか、これまで文京区との交流に関わってきた市民など27名が参加した。

食事はバイキング形式で行われ、座席配置にも気が配られており、歓迎ムードに包まれた和やかな場であった。この席では、これまでの交流に関わった方の紹介があり、過去の交流の写真等を見ながら、思い出話があちこちに咲いていた。これまでの変わらぬ友情を確かめる場面や、新たに培われた友情を喜び合う場面があちこちに見られるなど、市民レベルの交流が大いに図られた。



また、文京区が難民支援として寄付を募っているガラップミュレへの寄付金を贈呈した。寄付の目録をヴァイヒェル市長が受け取った場面は、大きな拍手が沸いた瞬間だった。歓迎会には、ガラップミュレ

の入所者も2名参加しており、区長を始め列席者とも言葉を交わし、目を輝かせて未来に目を向けている若者に、エールを送っていた。

予定終了時間を超過する大変盛況な歓迎会であり、参加者は一様に楽しめた様子で、良い交流ができたとの感想が多く聞かれた。

## 訪問視察

### 1 市内視察

カイザースラウテルン市文化部長、Dr.ダムマン氏(Dr. Christoph Dammann)の案内で、カイザースラウテルン市内を視察した。聖マルティン広場からシュタイン通りを進み、ゲルノト・ルンプフ教授の作品であるカイザー噴水のあるメインツァー門まで歩いた。ルンプフ教授は、窪町東公園内にあるカイザースラウテルン広場の彫刻群「神話空間への招待」の作者でもある。



カイザー噴水

昼食は、市内に残る最も古い木組みの建物でもあるレストラン・シュビンレーデルにて、この地域の名物ザウ・マーゲンをいただいた。

そのほか、フルフトハッレ大広間やシュテイフト教会など、カイザースラウテルン市の中心部の主要な部分を見学した。わかりやすい案内に加えて、気持ちの良い気候も相まって、姉妹都市に対する親近感が高まる市内視察となった。

### 2 フリッツ・ヴァルター・スタジアム

市を見下ろすベッツエンベルグの丘にあり、5万人近い観客を収容する。2006年FIFAワールドカップドイツ大会の会場であり、日本v s オーストラリアの試合も行われた。同年にカイザーを訪問した文京区少年サッカーチームほか訪問団計36名は、同試合を観戦している。



ここでは、スタジアムの管理者ザイレ氏(Herr Erwin Saile)による案内があり、プレスルームでスタジアムの概要とカイザースラウテルン市のサッカーチーム1.FCカイザースラウテルンの近況説明を受けた。

スタジアムの芝はとてもよく手入れされており、その美しさに驚嘆の声が聞こえていた。



### 3 日本庭園

平成12年に、文京区との親善友好活動の一環として開園した日本庭園は、ヨーロッパ最大規模のものである。平成25年には、日独友好、文化交流等の実績が評価され、外務大臣表彰を受けた庭園でもある。

この日は休館日であったが、日本庭園管理協会理事長シュテファン・ブロール氏(Herr Stefan Brohl)が中心となり、園内を案内していただいた。庭園は美しく、ツツジなど多くの種類の花が咲いていた。



現在、整備中である軽食を提供できる施設について説明があり、ブロール氏は、「平成27年のカイザースラウテルン市からの公式訪問団来日の際に、文京区内で食べたうどんの味が忘れられず、ぜひ日本庭園で提供したい屋号は『文京庵』にするというアイデアがある」とコメントした。

### 4 ガラップミューレ



ここは、労働と社会教育センター(ASZ=Arbeit-undsozialpaedagogisches Zentrum)という社会的な支援団体が、同伴者のいない未成年の庇護申請者への支援施設として運営している施設である。文京区はこの施設への寄付を区民から募っている。

ウィリー・ギルマン氏(Herr Willi Gillman)カイザースラウテルン市青年局長とハイケ・ハーベル氏(Frau

Heike Habel)ガラップミューレ運営責任者により、施設内を案内していただいた。入所者は18名で、そのほかにも20名ほどがこの施設のケアを受けているとのことであった。入所者は、母国で厳しい現実と直面しており、自分たちの可能性について、気づく間も無いままであったため、それに気づかせる支援を大切にしており、また、この施設が入所者にとって、最初の目的地として認知され、安心して過ごせるように心がけているとのことであった。

入所者は未成年の難民であるため、撮影に制限があったが、施設は明るく落ち着いた場所であり、適切なケアが行き届いているように感じられた。入所している若者からは、「運営責任者のハーベル氏は、第二の母親であり、信頼を置いている。」との発言が聞かれた。

## 5 リューデスハイム

カイザースラウテルン市から 60km ほど北に位置し、ユネスコ世界遺産であるライン渓谷中流上部に位置するリューデスハイムへ、専用バスで移動した。ラインラント・プファルツ州の州都であるマインツにかかる橋でライン川対岸のヘッセン州に入り、ニーダーバルトの丘から、これから下るライン川を見下ろした。そこからは、ブドウ畑に囲まれたリューデスハイムの街とライン川にナーエ川が注ぐ、この地方の地理を一望できる場所だった。

また、ニーダーバルトの丘には、高さ 10m ほどの碑「ゲルマニア像」が立っている。この碑は普仏戦争(1870 年 7 月～翌年 5 月)でフランスに勝利し、統一されたドイツ帝国の発足を記念したものである。

ニーダーバルトの丘



ゲルマニア像

## 6 ライン川



ニーダーバルトの丘から川岸まで下り、リューデスハイムから、ライン川を下る船に乗り、ザンクト・ゴアまで移動した。概ね 30km ほどの船旅となる。途中、いくつもの古城があり、また、空には飛行機雲がいくつも通っていた。両岸には鉄道と道路が走り、交通の要所としてのライン川の存在を感じることができた。

ザンクト・ゴア手前では、ローレライの岩がそびえ立っている。この黒い塊のような崖は、ライン川の中で一番狭いところであり、流れも速く、水面下に多くの岩が潜んでいることもあって、過去に事故が多かった。

このリューデスハイムからザンクト・ゴアまでの間は、一つも橋が架かっていないという特徴があった。このまま 30km 下流の街コブレンツまで橋は無く、世界遺産にふさわしい眺望が守られていると感じた。



ローレライの岩

## 7 トリーア

ザンクト・ゴアからは、90km ほど離れたトリーアへ移動した。ここはモーゼル川沿いに位置し、古代からの交通の要衝地であった。周囲にはブドウ畑が広がっており、有名なモーゼルワインの一大生産地である。

トリーアの起源はローマの植民市であり、紀元前 1 世紀に建設されたドイツで最古の都市と言われている。ローマ帝国時代には、ヨーロッパ進出の拠点となり、「第二のローマ」とまで呼ばれていた。

まず、ポルタ・ニグラを視察した。ポルタ・ニグラは 2 世紀頃に建てられた黒い城門の遺跡で、街中で相当目立つ建造物であった。また 2 世紀というと、日本では弥生時代後期であるが、その当時の遺跡が今もその場所に残っていることは驚きであった。

その後、シメオン通りを進み、大聖堂を視察した。祭壇は荘厳な造りを感じることでき、ステンドグラス窓から差し込む光が美しく、幻想的で時間の経過を忘れてしまうかのような雰囲気であった。



ポルタ・ニグラ



大聖堂

また、トリーアの市場は、季節の野菜が並び、地元住民や観光客で賑わっていた。日本では緑のアスパラガスが一般的であるが、ドイツでは白アスパラガスが春の訪れを告げる代表的な野菜であり、訪問団もとても興味深く見入っていた。

トリーアは、一般的なツアーではなかなか訪問することのない街であるが、姉妹都市カイザースラウテルン市を起点とした今回の区民ツアーだからこそ実現できたものである。

## 8 ストラスブール

カイザースラウテルン市から、90kmほど離れたフランスの都市、ストラスブールへ向かった。市からはバスで、ノイシュタット、カンデルを通り、ローターブールでフランスに入国し、ロッペンハイム経由でユネスコ世界遺産であるストラスブールへ到着した。

ストラスブールでは、イル川に囲まれた中須を中心に視察した。観光客も非常に多く、また国境沿いの街でもあり、フランスとはいえ、ドイツ語がとても多く聞こえた。まず、旧市街地に入る前に、街全体を現す模型があった。グータンベルグ広場の脇を通り、車が一台通れるぐらいの石畳の道を、いくつか抜けて、ラ・プティット・フランスへと向かった。ここはかつて、なめし皮職人の居住地区だったところで、水路の両側には木組みの家が並び、この地方の歴史と伝統を知ることができた。

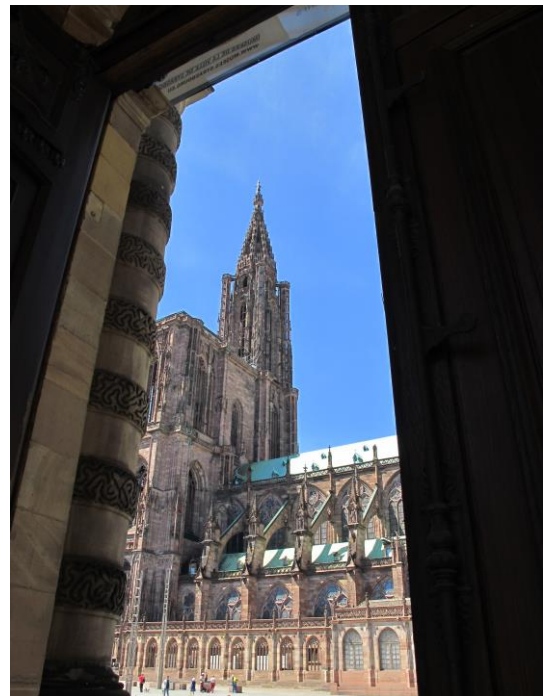


グータンベルグ広場



ラ・プティット・フランス

その後は、ノートルダム大聖堂を視察した。大聖堂は、天文時計と呼ばれる仕掛け時計が大変有名で、鐘が鳴り響く時間に、タイミングよく見学することができた。多くの人形が時間に合わせて連動して動くだけでなく、その日の太陽と月の満ち欠け、星座や惑星の位置関係のほか、閏年の計算ができる仕掛けが組まれており、150年前に造られたものとは思えないほど、技術レベルの高さをうかがい知ることができた。



ノートルダム大聖堂

## 9 ハイデルベルク

ハイデルベルクは、バーデンヴュルテンベルク州北西部のネッカー川沿いに位置し、旧市街を見下ろすプファルツ選帝侯の宮廷であったハイデルベルク城や、ドイツで最も古い大学ループレヒト＝カールス大学で知られる都市である。また、近隣のマンハイムやルートヴィヒスハーフェンとライン＝ネッカー大都市圏と呼ばれる人口密集地域を形成しているという特徴もある。

ここでは、まずハイデルベルク城に向かい、テラスからネッカー川とそこにかかる古い橋を上から視察した。赤い屋根で彩られたまち並みが、周辺の緑と調和し、とても美しい眺望であった。

その後、ケーブルカーで市内に降りて、古い橋や市内の視察を行った。旧市街地は一本のメインストリートを中心に形成されており、その中心に教会があるなど、散策にも好都合で、迷うこと無く過ごすことができた。

また、ハイデルベルクの観光スポットとしても有名で、かつ歴史のある学生酒場で昼食を取った。



ハイデルベルクのまち並

## 10 B2Run (5km マラソン大会)

カイザースラウテルン市内で、ドイツにある健康保険組合が主催する5km マラソン大会が行われた。訪問団のうち、区長を含む4名は、カイザースラウテルン市役所チームと合流して、このマラソン大会に臨んだ。市役所チームと合同写真を撮った後、沿道で他の訪問団員や、日本庭園の関係者、また一般の市民から大きな声援を受けながら完走することができ、姉妹都市文京区の存在を大きくアピールできる機会となった。



訪問団員の報告と  
現地の新聞報道等



## 訪問団員の報告

文京区議会議員 白石 英行

カイザースラウテルン市と姉妹都市締結 30 年を記念しての訪問は、本締結に向けて行動を起こした、先代の文京区議会議員の「世界平和」への想いが着実に歩んでいることを区民の皆さんと共に、実感させて頂きました。

特別区議会議長会会長の職務のため、残念ながら 4 日目早朝に帰路につかなければならず、短い時間でしたが、好天の中での視察、そして私が学生の時、第 1 回目となる区民派遣に区内団体の青少年部門の代表として訪問した際にご一緒させて頂いた、小森谷さんと同行できました。当時の記憶からも、改めてこの良き自治体間の信頼と友情が育まれてきた感動を覚えると共に、これからも次世代へ継承される事を切に願いました。

30 年前には、教育施設・サッカー場や環境学習など文化の違いを勉強させて頂き、交流事業では地方紙に参加者全員が掲載されるなど、カイザー市のおもてなしを頂きました。現在では、都市化も進む中で、日本の文化を生かした日本庭園や社会背景から難民受け入れ施設ガラップミューレなどを展開され、日本庭園を管理されている日本庭園管理協会 シュテファン・プロール理事長には「主体的活動の精神」をガラップミューレ運営主体のウィリー・ギルマン青年局部長、ハイケ・ハーベル運営責任者の皆様には、「共助の精神」に改めて感銘を受けました。姉妹都市締結の目的に向け、両自治体の発展の為に課題解決を図る事を期待致します。

クラウスヴァイヒェル市長との公式訪問団会談では、両自治体間での市民交流への考えが活発に意見交換され、それぞれの魅力がこれから展開され、成熟された関係を区民にどのように体感できるかが、今後の展開へと結びつく事と思います。しかし一方で、30 年経過した姉妹都市の関係が区民に十分に理解されていない事は残念な事です。このツアーに参加した区民の皆様には、フランクフルトというハブ空港から車で 1 時間半というカイザースラウテルンの立地を生かし、周辺観光を含めたツアーを展開しましたが、その時に参加される方々だけでなく、多くの区民の皆様が個人的にその周辺都市を訪問又は留学されている事と思います。先日友人がヨーロッパ訪問の際に、カイザースラウテルン市庁舎を訪問したものの、姉妹都市という関係を感じる事ができなかったという事でした。このようなチャンスを生かす為に、「姉妹都市パスポート」等を発行して、両自治体間で区民市民が訪問した場合には、「姉妹都市である事が体感できる仕組み」を構築して行く事も必要と感じています。



また、カイザースラウテルン市内において、彫刻家ゲルノト・ルンプフ、バルバラ・ルンプフ夫妻の作成したシンボル彫刻を見て、本区の窪町東公園の一角獣を中心とした彫刻のあり方を再考できないか考えると共に、姉妹都市を結んでいる都市

の方向を示す案内版など本区が国際都市になる上で必要な事もあると勉強させて頂きました。

今回、カイザースラウテルン市議会から 1 名の議員が懇親会に参加して頂きました。今後は、カイザースラウテルン市が研究機関の集約地となった魅力の本区の持つ教育機関の魅力とどのようにパートナーシップを構築するかなど、議会間での姉妹都市施策への議論が深められるよう、関係構築が必要と思いました。

最後に、クラウスヴァイヒェル市長をはじめ、各団体の皆様に温かい受け入れを頂いた事に心より感謝申し上げます。

このたび公式訪問団の一員としてカイザースラウテルン市を初めて訪問いたしました。カイザースラウテルン市との姉妹都市交流は、昭和55年11月に第一次文京区議会姉妹都市調査団の訪問から始まります。そして、昭和58年9月の第四次文京区議会姉妹都市調査団に同行した遠藤区長(当時)が友好都市を結び、昭和63年3月に姉妹都市提携書に調印に至るなど、文京区議会がきっかけを担ったものであります。私は、平成27年のカイザースラウテルン市からの訪問団来日の際に、ヴァイヘル市長とはお会いしておりましたが、同市に伺うのは初めてでした。また今回は、平成30年の姉妹都市30周年を目前に控えた訪問でありました。姉妹都市交流の所管委員会である総務区民委員会委員長として、この訪問にあたり議会の先輩方の功績とその後の区当局の交流実績を確認する意味を込めて参加してまいりました。

カイザースラウテルン市では、市長の歓迎から始まり、カイザースラウテルン広場の彫刻を制作したルンプフ教授のカイザー噴水、2006FIFAワールドカップドイツ大会で区の少年サッカーチームが日本対オーストラリア戦を観戦したフリッツ・ヴァルター・スタジアム、平成25年に外務大臣表彰を受けたヨーロッパ最大級の日本庭園、区民からの浄財を寄付する未成年難民の支援施設ガラップミューレなど、文京区とカイザースラウテルン市の交流の軌跡を中心に視察を行ってまいりました。とりわけガラップミューレでは、世界的な課題である難民問題への対策施策の一つであり、そこにいた青年の輝いている目や、それぞれの能力に合わせて、社会に羽ばたこうと希望に胸を膨らませている姿を目の当たりにしてきました。このように姉妹都市の施策を文京区が支援するということは、長い交流の中において大きな出来事ではないかと思えます。



また、公式歓迎会ではツアー参加者の区民とカイザースラウテルン市民の交流が

図られ、温かい歓迎を受けました。参加した区民からは、カイザースラウテルン市でのおもてなしやドイツの街並みに対し、異口同音に感激している声が聞こえました。

このように姉妹都市交流事業は充実している一方で、一般区民のカイザースラウテルン市の認知度は残念ながら高くありません。そのために、私も交流に関わった区民の一人として、過去に訪問経験のあるOBやOGと共に、カイザースラウテルン市との姉妹都市交流を区内に広めていき、区民の国際理解をさらに促進してい

きたいと感じています。

最後に、この場をお借りして、ヴァイヒェル市長を始め市民の皆様に温かく迎えて戴き、素晴らしい視察ができたこと、またフランクフルト総領事神山様にもご尽力いただきましたこと、そして何よりご一緒させていただいた区民ツアーに参加された皆様に、心より感謝いたします。

## 区民ツアー参加者からのアンケート記載内容等（抜粋）

- 区民ツアーの満足度はどうでしたか

大変良かった	13名
良かった	3名
普通	0名
あまり良くなかった	0名
良くなかった	0名

- 区民ツアーに参加したことで、カイザースラウテルン市を知ることができましたか。

期待を超えて知ることができた	9名
期待どおりだった	6名
期待を少々下回った	1名
期待を大きく下回った	0名
その他	0名

- 満足度を高めた要素の主な意見

- (1) カイザースラウテルン市に連泊したため、移動が楽だったこと
- (2) 通常のツアーや個人では入れない、難民施設やサッカースタジアム、フランクフルト総領事館等を視察・体験できたこと
- (3) 知られた観光地ではなく、普段のドイツを感じられた
- (4) 参加者同士の横のつながりができたこと

- 改善すべきポイントの主な意見

- (1) お互いの住民同士の交流イベントがもう少しあっても良い
- (2) 訪問した各所での自由時間が少なかった
- (3) もっとカイザースラウテルン市内を巡っても良かった

- その他の意見

- ・ 2～3か月前から言葉を勉強するなど、いい刺激となった。
- ・ 大した予備知識もなく参加したので、もう少し予備知識を入れておくべきだったと反省している。
- ・ ガラップミュージーレの少年の澄んだ瞳が何を見てきたのかと想像し、心に残った。
- ・ ガラップミュージーレ視察に参加させて頂いて、青年の美しい瞳、所長の真摯な姿勢に心動かされました。少くとも遠い国のことのように思っていたことを身近に感じることが出来ました。遠く離れているからこそ、私達に出来ることをすれば良いのだと思えるようになった。

## Delegation aus Japan zu Besuch im Japanischen Garten

2018 besteht die Städtepartnerschaft seit 30 Jahren

**Japanischer Garten.** Eine rund 25-köpfige Delegation aus Kaiserslauterns Partnerstadt Bunkyo-ku war im Japanischen Garten zu Besuch. Die Gruppe unter Führung von Bunkyokus Bürgermeister Hironubo Narisawa konnte sich bei schönstem Wetter von der Authentizität und dem perfekten Pflegezustand des größten japanischen Gartens in Europa überzeugen und zeigte sich beeindruckt.

Stephan Brohl, erster Vorsitzender des Vereins Japanischer Garten, empfing die Gäste am roten Tor-i, nachdem man sich bereits am Vormittag beim offiziellen Empfang durch Oberbürgermeister Dr. Weichel im Casimirsaal herzlich begrüßt hat. Es war ein freudiges Wiedersehen nach gut eineinhalb Jahren. Damals reiste der Vorsitzende mit der Kaiserslauterer Delegation nach Tokyo. „Es war ein Wiedersehen wie unter alten Freunden“, so Brohl, der neben dem japanischen Bürgermeister weitere Gäste von früher und von seinem Delegationsbesuch her kennt.



**Hironubo Narisawa, Bürgermeister der Partnerstadt Bunkyo-ku, im Japanischen Garten Kaiserslautern**

FOTO: JAPANISCHER GARTEN KAISERSLAUTERN E.V. / PS

Andreas Schmidt, zweiter Vorsitzender des Vereins Japanischer Garten, übernahm die Führung der Gruppe durch den Garten. Er und Geschäftsführerin Petra Rosenzweig stellten sich den Fragen der Besucher. Neben den typischen Elementen der Anlage und dem historischen Teehaus, zeigte man den interessierten Gästen den aktuellen Baufortschritt am neuen Imbiss. Die Gruppe war be-

geistert, dass die initiale Idee zum Bau des Imbiss beim letzten Delegationsbesuch in Bunkyo-ku entstand und so fand sie auch schnell Vorschläge für einen passenden Namen. Nach ihrem Besuch im Japanischen Garten fuhr die Gruppe weiter zum einem weiteren Programmpunkt. Abends traf man sich wieder beim offiziellen Essen, zu dem OB Dr. Weichel geladen hatte. Die Delegation

nutzt Kaiserslautern in den kommenden Tagen als Stützpunkt für Tagesausflüge in die Pfalz und für Städtereisen. Einige Teilnehmer haben Laufschuhe mitgebracht und werden am Donnerstag am Firmenlauf in Kaiserslautern teilnehmen.

Für 2018 hat Bürgermeister Narisawa anlässlich des 30-jährigen Bestehens der Partnerschaft beider Städte eine Einladung zu sich nach Bunkyo-ku ausgesprochen. „Die Freundschaft mit Bunkyo-ku ist trotz der großen Entfernung sehr intensiv, wir haben tolle Gespräche geführt, Erinnerungen aufgefrischt und neue Themen besprochen. Ich freue mich über die Begegnung und hoffe, nächstes Jahr dabei sein können, wenn es nach Japan geht. Wir überlegen aktuell eine Partnerschaft mit einem der großen japanischen Gärten in Tokyo, das wäre ein toller Anlass.“ so Brohl nach dem gemeinsamen Abendessen.

Der Japanische Garten in Kaiserslautern ist für Besucher täglich, außer Montags, von 10 bis 19 Uhr geöffnet. (ps)

## 日本からの訪問団が日本庭園を視察 2018年に姉妹都市30周年を迎える

日本庭園。カイザースラウテルンの姉妹都市文京区からの25名（実際は26名）の訪問団が日本庭園を視察した。成澤廣修区長の引率する訪問団は、素晴らしい天候の中、本格的で完璧に整備されたヨーロッパ最大の日本庭園を堪能し、感銘を受けていた。

日本庭園協会の筆頭理事のシュテファン・ブロール氏が、その日の午前中にカシミール広間でのヴァイヒェル市長による公式な歓迎会にて既に挨拶を交わしていたが、今回はこの来客を赤い鳥居で出迎えた。1年半来の、心からの再会となった。その当時には、筆頭理事は、カイザースラウテルンからの訪問団と共に、東京を訪問していた。ブロール氏は、日本からの区長と共に日本の訪問時に知り合った多くの訪問者がいたので、「旧友との再会が出来た。」と述べた。

日本庭園協会副理事のアンドレアス・シュミット氏が、訪問団に日本庭園内を案内してまわった。彼と、責任者のペトラ・ローゼンツワイグ女史が訪問団の質問に答えていた。庭園の紹介と歴史的な茶室の他に、興味深げな訪問団に新しく建設中の食事処の進捗状況を説明した。この食事処の建設のアイデアが前回の文京区訪問時に思いついたものであることに訪問団は喜んでおり、この食事処を適切に表す名称の案もすぐに提案された。日本庭園の視察後には、訪問団は次の視察地に向か

った。夜には、ヴァイヒェル市長主催の公式晩餐会にて再会した。訪問団は、今後数日、カイザー  
スラウテルンを基点として、プファルツと周辺の視察をする予定となっている。数名の訪問団員は、  
ランニングシューズを持参し木曜日のカイザースラウテルン団体マラソンに参加することにして  
いる。

成澤区長は、2018年の両都市の姉妹都市30周年に際して、文京区に来るように伝えた。「文京  
区との友好は、その地理的な距離にもかかわらず、非常に密接だ。私たちは素晴らしい会談ができ、  
思い出を蘇らせ、新しいテーマに関して話し合った。私はこの出会いを喜ばしく思っており、来年  
の日本訪問時に同行できるように願っている。東京の大きな庭園のひとつと友好関係を結べないか  
検討をしており、素晴らしい機会となるだろう。」と、晩餐会のあとにブロール氏が述べた。

日本庭園は、月曜日以外毎日、10時から19時まで開園している。

## Delegation aus Bunkyo-Ku war zu Gast in Kaiserslautern

20.000 Euro Spende für die Flüchtlingshilfe – 2018 Gegenbesuch geplant

Von 14. bis 19. Mai weilte eine 27-köpfige Delegation aus der japanischen Partnerstadt Bunkyo-Ku in Kaiserslautern. Ausflüge nach Straßburg, Trier und an den Rhein standen auf dem Programm, ebenso verschiedene Termine im Stadtgebiet. Die beiden Oberbürgermeister, Klaus Weichel und Hironobu Narisawa, trafen zu einem konstruktiven Gespräch zusammen, in dem es um künftige gemeinsame Projekte ging. Thema dabei waren unter anderem die olympischen und paralympischen Sommerspiele im Jahre 2020 in Tokyo. In Bunkyo-Ku – einem Stadtteil von Tokyo – laufen derzeit bereits die Vorbereitungen auf Hochtouren. Die Partnerstädte, und somit auch Kaiserslautern, sollen in die Gestaltung des Rahmenprogramms eingebunden werden.

Auch der seit Jahrzehnten bestehende Schüleraustausch soll fortgesetzt und intensiviert werden. Für das kommende Jahr ist zudem ein Besuch einer Delegation aus Kaiserslautern in Bunkyo-Ku geplant. Beim jetzigen Besuch in Kaiserslautern lag ein Interessenschwerpunkt seitens der Gruppe aus Bunkyo-Ku auf der Integrationsarbeit der Barbarossastadt. So besuchte die Delegation um OB Narisawa am Montagnachmittag die Unterkunft für unbegleitete minderjährige Jugendli-



Fast schon zum Abschluss des Aufenthalts stand am Donnerstagabend der Firmenlauf auf dem Programm, bei dem fünf Delegationsmitglieder aus Bunkyo-Ku im Team der Stadt Kaiserslautern mitliefen, darunter OB Narisawa. Beim gemeinsamen Fototermin vor dem Rathaus übertrug Oberbürgermeister Weichel seinem japanischen Amtskollegen die Aufgabe des Teamcaptains.

FOTO: PS

che an der Galappmühle, wo sie von Heike Habel (ASZ) und Jugendreferatsleiter Willi Gillmann begrüßt und

durch die Einrichtung geführt wurden. Beim späteren Empfang im Brauhaus auf der Gartenschau hat OB Narisawa

Kaiserslautern zur Unterstützung der Flüchtlingsarbeit eine Spende in Höhe von 20.000 Euro übergeben. (ps)

## カイザースラウテルンで文京区からの訪問団をもてなす

難民支援として 20,000 ユーロの寄付 – 2018年に文京区訪問を計画  
5月14日から19日まで日本の姉妹都市文京区からの27名(実際は26名)がカイザースラウ  
テルンを訪問した。市内の各地区並びにストラスブール、トリーアとライン川の視察も訪問プロ  
グラムに含まれていた。両都市のクラウス ヴァイヒェル市長と成澤廣修区長は、双方の将来に渡る  
事業に関して建設的な会談を行った。会談では、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大  
会も議題にあがった。文京区-東京都の一部である-では、準備が本格的に始まっている。姉妹都市

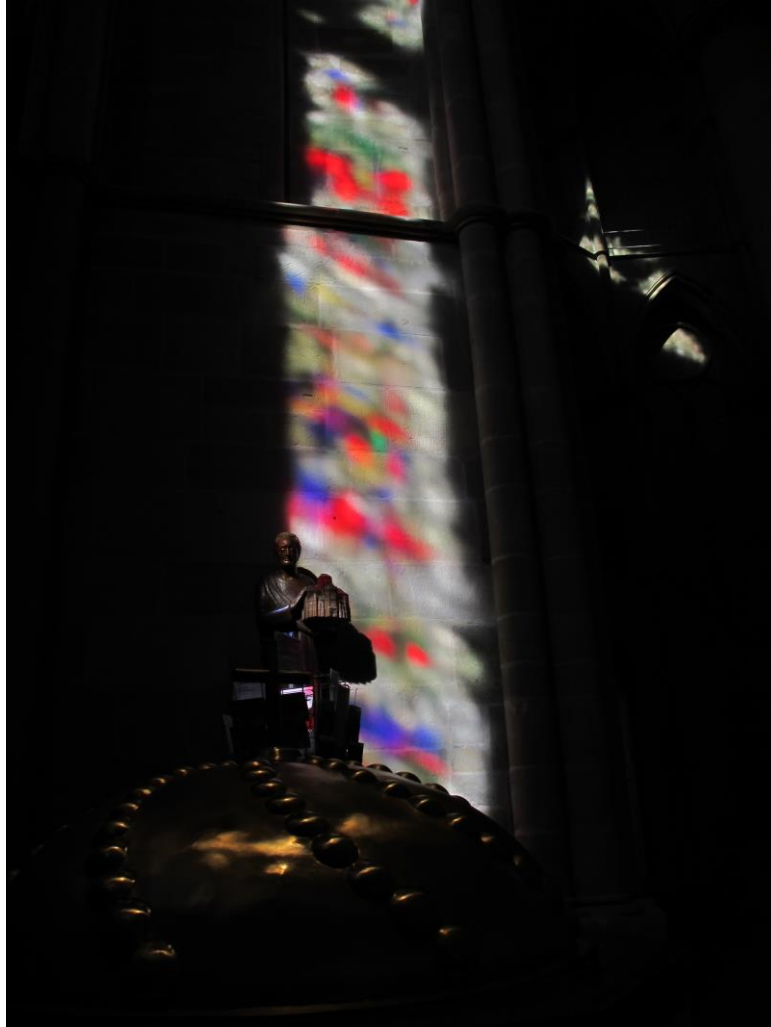
-カイザースラウテルンも含めて-は、この骨組み事業の計画策定への参加を要請された。

過去数十年にわたる実績のある、学生交換事業も継続深化されることが確認された。さらに、来年にはカイザースラウテルンから文京区への訪問団が計画されている。

今回のカイザースラウテルンへの訪問では、文京区の訪問団はこのバルバロッサ都市の統合作業にも関心が集まっていた。そこで、成澤区長と訪問団は、月曜日に保護者同伴の無い未成年が滞在しているガラップミューレを訪問し、ハイケ・ハーベル（ASZ-労働と社会教育センター）並びに青少年担当長があいさつし、施設内を案内した。その後、午後にはガルテンシャウ公園のブラウハウスで、成澤区長がカイザースラウテルンに難民支援のための寄付金として 20,000 ユーロを引き渡した。

滞在期間の終盤となった木曜には、団体マラソンが開催され、文京区からの訪問団のうち成澤区長を含む 5 名（実際は 4 名）がカイザースラウテルン市の一員として参加した。市役所前の集合写真の撮影の際に、ヴァイヒェル市長が、日本での同僚である成澤区長にチームリーダーの役割を引き渡した。





大聖堂ステンドグラス(トリーア)

平成 29 年度  
文京区×ドイツ・カイザースラウテルン市  
姉妹都市交流 30 周年記念 訪問団報告書

平成 29 年 9 月  
文京区  
アカデミー推進部アカデミー推進課  
〒112-8555 文京区春日 1-16-21  
電話 03(5803)1310